



2022年 9月 人権一口講座



「人権を守る小さな灯」

通信網がより発達し、世界中の話題がすぐに見聞きできる時代となった。

先口のこと、中国で起った子どもに関わる映像が、「話題のネットニュース」として放送された。

信号待ちで止まっていた白い車の助手席窓から自分の体(腰から上)を乗り出している子どもが映っていた。信号が青に変わり車が急発進した途端、「ストーン」。窓から転げ落ちてしまった。白い車…。子どもが落ちたことに気付かず走り去ってしまった。見て思った。「なんて事ー運転手は気付かないなんて、あり得ない。」「けれど、何かに気を取られていたら気付かないよな。助手席にいる子どもが身を乗り出していることさえ見ていないのだから…。」

驚いたのは、そのあとの出来事。頭から落ち腹ばいになった子どもは道路上で動かなかった。子どもの脇を数台、乗用車がスピードを落とさず走り去って行く。5台目6台目が通り過ぎて、子どもの数メートル手前で一台の乗用車が後続車から子どもを守るかのように交差点手前、道路中央に停車した。ブレーキランプと点滅した赤いハザードランプがまぶしく見える。すると後続車が一台、また一台と大きな弧を描くように次々と子どもの周りに停車していく。その直後、停車した車から人が出てきて、道路上に落ちた子どもを抱き上げたところで映像は終わった。

「親は何している(怒)ー」「なんて素晴らしい(笑)ー!」思いはいろいろ湧いた。

「あぶないー!」すぐに助ける行為をとった人は尊敬に値する。私だったらすぐに動けるだろうか。無理だろう。いろいろ考えたが一番はこれだった。

それは、命ある子どもの命を守る。生きる権利を守ってくれた大人に感謝である。小事にも大きな関心を持って欲しい!小さな子どもをもっと大人は守ってあげないといけな。心から思ったのである。

交差点手前で止まった乗用車のハザードランプのように、人権(人として持つ様々な権利)を守る小さな灯がもっともっとあつて欲しいと心から思い願う。



(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」九月号より)

短いメッセージ

やさしくすることが苦手なぼく
今日初めてやさしくできたよ

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 帯山西小学校 4年 田村 蒼志さんの作品より